

番外編

『助け合い』

株式会社新宿高野 町田小田急店

堀 夏美

入社して 4 か月が過ぎた頃、百貨店のお手洗いの前でお困りのご夫婦がいらっしゃいました。

「どうかされましたか」とお伺いすると奥様が病気を患われており、バックをなくしてしまったとのことでした。旦那様は女性用のお手洗いに入ることができません。他のお客様に頼んだところ断られてしまい、大変お困りのご様子でした。そこで私は奥様と一緒にお手洗いの中を探し無事にバックを見つけることができ、売り場に戻りました。

その日、仕事を終え、帰宅中に先輩社員から「先ほどのご夫婦が御礼として、店頭でギフト商品をご購入くださった」との連絡をもらいました。

困っている方がいらしたら助けることは“当たり前”と思っていたので、お客様がわざわざ感謝の気持ちを伝えに高野の売り場までご来店いただいたことをとても嬉しく感じました。

当社のお客様だけでなく、百貨店にご来店くださるすべてのお客様にも同じように思いやりの気持ちをもって接することの大切さを知りました。

普段、私はいろいろな方に助けられて仕事をしています。この出来事はわたしにそのことを再確認させてくれました。ご夫婦のお客様に本当に感謝の気持ちでいっぱいです。